

平成 29 年度野々市市創生総合戦略推進会議 会議録（要約）

日 時

平成 29 年 11 月 7 日（火） 10 時～12 時

場 所

野々市市役所 2 階 201 会議室

次 第

1 開 会

2 委嘱状交付

3 議 事

(1) 重要業績評価指標（K P I）の読み替えについて

(2) ののいち創生総合戦略の概要について

(3) ののいち創生総合戦略の推進状況について

(4) 地方創生関連交付金（平成 28 年度）の効果検証について

4 委員からのご意見等

5 閉 会

出席委員

石川	憲一	会長
三沢	典彦	副会長
飯田	秀昭	委員
鴨宮	隆史	委員
絹川	博	委員
澤村	昭子	委員
千田	利明	委員
杖村	修司	委員
飛田	和重	委員
西村	一正	委員
藤田	雅顯	委員
宮崎	栄一郎	委員

欠席委員

なし

<p>司会 (開会)</p>	<p>おはようございます。定刻少し前ではございますが、ただ今より、平成29年度野々市市創生総合戦略推進会議を開催いたします。</p> <p>本日は、皆様方には、大変ご多用のところ、ご出席くださいます、誠にありがとうございます。</p> <p>私は、本日の司会進行を担当させていただきます、企画課長の荒木と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>初めに、本日の会議ですが12名の委員全員の皆様にご出席いただいております。野々市市創生総合戦略推進会議設置要綱第6条第2項の規定に基づきまして、委員12人のうち半数以上の出席がありますので、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。</p> <p>次に、開会にあたりまして、皆様方をお願いがございます。この推進会議につきましては、開催状況を市のホームページで公表していきたいと考えております。会議録を作成するため、本日の会議の内容を録音させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。併せまして、発言される際には、マイクを使用させていただきますよう、よろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、本日の会議資料を確認させていただきます。事前に送付させていただいておりますが、資料番号1番から4番まで資料がございます。あわせましてチラシと、パワーポイントのA4の資料と、皆様方の名簿をお手元に置いてございます。過不足があれば事務局までお申し付けください。</p>
<p>司会 (委嘱状の交付)</p>	<p>それでは委嘱状の交付に移らせていただきます。</p> <p>今回の会議から、ご所属の機関の人事異動等によりまして、新しく4名の方にご参加をいただいております。</p> <p>本来であれば市長の方から、委員の皆様へ委嘱状をお渡しすることになりますが、本日市長は公務が重なり出席が叶いませんでしたので、副市長より委嘱状の交付をさせていただきたいと思っております。</p> <p>今回から会議に参加していただく方々の席に副市長がお伺いし、委嘱状をお渡しいたします。私の方からお名前をお呼びいたしますので、その際には、恐縮でございますが、その場でご起立いただき、委嘱状をお受け取りいただきたいと存じます。</p> <p>株式会社中日新聞北陸本社北陸中日新聞白山支局長 鴨宮 隆史様でございます。</p> <p>株式会社北國新聞社白山支社長 飛田 和重様でございます。</p> <p>石川県立大学産学官連携学術交流センター長 三沢 典彦様でございます。</p> <p>石川労働局白山公共職業安定所長 宮崎 栄一郎様でございます。</p>
<p>司会 (副市長あいさつ)</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>続きまして、本会議の開催にあたりまして、常田副市長より、委員の皆様</p>

<p>副市長</p>	<p>様にごあいさつを申し上げます。</p> <p>皆様おはようございます。</p> <p>本日はご多用のところを、野々市市創生総合戦略推進会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、今ほど委嘱状をお渡ししました、新しく委員に就任された方々につきましては、当会議委員への就任を快く快諾いただき、誠にありがとうございます。日頃から皆様には野々市市へご支援・ご協力いただいております。重ねてお礼申し上げます。</p> <p>数年前に、増田寛也さんが『地方消滅』という本を出されました。その中で、2100年には、日本の人口が5千2百万人になるのではないかと記載されていました。これは、明治後期と同じくらいでございます。ただし、明治時代は人口構成のピラミッドが正三角形で、若者が多数いる中での5千万人、対して、2100年は高齢者の方が多数おいでの5千万人ということになります。さらに、若者が東京に一極集中にして地方は消滅することも記載されていました。全国的にも衝撃的な内容でありましたし、私ども地方行政に携わる者にとっても、本当にショッキングな内容でした。</p> <p>野々市市はどうかということですが、幸いなことにまだ人口は増加傾向にあります。野々市市第一次総合計画の中で元々は平成33年度の目標人口を54,000人としていたのですが、前回の国勢調査で既に55,000人を突破いたしましたので、総合計画【中間見直し】にて58,000人へと見直しております。小学校中学校も児童が増えておりまして、クラスを増設しないといけない状況でございます。また、高齢化率は19%程度でありまして、高齢社会ではありますが超高齢社会まではまだ余裕があります。これらのことから、野々市市は今のところ、現状としては活気あるまちかと捉えております。しかし、力のあるうちに、地方消滅ではなく、地方創生に向けての様々な取り組みを進めていかないと間に合わないのではないかと思います。</p> <p>本日は委員の皆様方、「産学官民金労言」の各界からお集まりいただいております。後程事務局から説明もするところですが、地方創生に向けた取り組みについて、皆様方からの評価をぜひいただきたいと思っておりますので、忌憚のない意見を頂戴したいと思っております。本日はよろしく願いいたします。</p>
<p>司会 (委員のご紹介)</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>改めまして、委員の皆様のご紹介をさせていただきます。</p> <p>初めに、委員の皆様をご紹介いたします。</p> <p>会議の会長をお願いしております金沢工業大学名誉学長の石川 憲一会長でございます。</p> <p>野々市農業協同組合常務理事の飯田 秀昭委員でございます。</p>

	<p>株式会社中日新聞北陸本社北陸中日新聞白山支局長の鴨宮 隆史委員でございます。</p> <p>野々市市子ども・子育て会議会長の絹川 博委員でございます。</p> <p>野々市市女性協議会副会長の澤村 昭子委員でございます。</p> <p>北陸信用金庫野々市支店長の千田 利明委員でございます。</p> <p>株式会社北國銀行代表取締役専務の杖村 修司委員でございます。</p> <p>株式会社北國新聞社白山支社長の飛田 和重委員でございます。</p> <p>野々市市商工会副会長の西村 一正委員でございます。</p> <p>野々市市連合町内会会長の藤田 雅顯委員でございます。</p> <p>石川県立大学産学官連携学術交流センター長の三沢 典彦委員でございます。</p> <p>石川労働局白山公共職業安定所長の宮崎 栄一郎委員でございます。</p> <p>委員の皆様には、これから何かとお世話になりますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。</p>
<p>司会 (職員の紹介)</p>	<p>続きまして、野々市市の紹介をいたします。</p> <p>常田 功二 副市長でございます。</p> <p>山口 良 総務部長でございます。</p> <p>金場 康宏 企画振興部長でございます。</p> <p>東田 敏彦 健康福祉部長でございます。</p> <p>西野 豊 産業建設部長でございます。</p> <p>大久保 邦彦 教育文化部長でございます。</p> <p>続きまして、事務局職員の紹介をいたします。</p> <p>企画課 課長補佐の宮前です。</p> <p>企画課 企画係の北坂です。</p> <p>企画課 企画係の久田です。</p> <p>最後に、私、企画課長の荒木です。よろしくお願ひいたします。</p> <p>野々市市創生総合戦略推進会議設置要綱第6条第1項の規定により、会長の進行につきましては会議の議長となることと定めておりますので、この後の報告及び議事進行につきましては、石川会長にお願いしたいと思います。</p> <p>石川会長に、改めてごあいさつをいただいた上で、議事の進行をお願いしたいと思います。</p> <p>また、昨年度まで副会長を務めていただきました榎本 俊樹委員がご異動されたことから、「副会長は、委員のうちから会長が指名する」としておりますので、副会長の選出についても会長の方よりお願いいたします。</p>
<p>石川会長 (会長あいさつ)</p>	<p>座って御挨拶をさせていただきます。改めまして金沢工業大学の石川でございます。</p>

	<p>これまでに引き続きまして、野々市市創生総合戦略推進会議の会長を務めさせていただきます。委員の皆様のご協力をいただきながら、会議を進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>昨年度より、言論界を代表しまして、北陸を代表する報道機関の方々にご参画をいただき、その結果「産学官民金労言」、この各界代表の皆様と幅広く議論を進めたいと思っております。</p> <p>さて「ののいち創生総合戦略」における主な取り組みにつきましては、昨年度は委員の皆様と共に確認し、意見を出し合いました。今回からは、「ののいち創生総合戦略」の推進状況について、その実績値や取り組み状況に基づく評価を、皆様と共に議論していきたいと考えております。</p> <p>この会議の委員の皆様方は、それぞれのご立場で、主体的に地方創生に向けた取り組みを実践し、意見を出し合いそして共有しあいながら、これまで以上にその“和”を大切にすることが、これからの未来の地域づくりに求められるものだと思っております。</p> <p>私ども金沢工業大学におきましても、平成16年に野々市市と連携協定を締結して以来、一体となって多くの特色ある取り組みを進めてまいりました。今後も「学」の立場から、教職員をはじめとして学生ともども、野々市市の創生に積極的にお手伝いをさせていただきたいと思っております。</p> <p>この会議が、野々市市の創生に向けた積極的な意見が交わされる場となりますよう、委員の皆様から忌憚のないご意見を賜りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>以上、誠に簡単ではございますが、今年度の野々市市創生総合戦略推進会議の開催にあたってのご挨拶とさせていただきます。 どうもありがとうございます。</p>
<p>石川会長 (副会長の選出)</p>	<p>先ほど、司会の方よりお話がありましたが、私の方から副会長を指名させていただきます。</p> <p>副会長は、石川県立大学 産学官連携学術交流センター長の三沢 典彦委員にお願いしたいと思っております。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>
<p>三沢副会長 (副会長あいさつ)</p>	<p>石川県立大学の三沢でございます。ただいま石川会長の方から、野々市創生総合戦略推進会議の副会長の任を拝命いたしました。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>私、産学官連携学術交流センター長と石川県立大学の学長補佐（研究担当）を兼務しております。</p> <p>石川県立大学は農学系の大学でバイオテクノロジーに関しまして、非常に頑張っておりますので、よろしく願いします。</p>
<p>石川会長</p>	<p>ありがとうございました。</p>

<p>事務局 (説明)</p> <p>資料 1 重要業績評価指標 (KPI) の読み替えについて</p>	<p>それでは、早速であります、議事の進行に移ります。</p> <p>お手元に資料がございますが、議事 1 番の、重要業績評価指標 (K P I) の読み替えについて、事務局より説明をお願いします。</p> <p>資料 1 「重要業績評価指標 (K P I) の読み替えについて」でございますが、ののいち創生総合戦略に掲げた施策ごとの進捗状況を検証するために重要業績評価指標 (K P I) を設定しております。</p> <p>重要業績評価指標 (K P I) のうち、経済産業省と内閣官房が提供する地域経済分析システム (R E S A S) により設定した「滞在人口率の全国順位」であります、地域経済分析システム (R E S A S) の更新に伴いまして、戦略の策定当初と同一の情報が提供されなくなりました。</p> <p>具体的には、中ほどの表で言いますと、基準値としております、平成 26 年度の平日の全国 85 位や、休日の全国 61 位の全国順位が、算出方法の変更がなされたため、同一の順位が表示されなくなりました。このことから、重要業績評価指標 (K P I) を新たに「滞在人口」と設定いたしました。</p> <p>基準値につきましては、ののいち創生総合戦略を策定した際に基準とした、平成 26 年度の滞在人口を用いております。目標値につきましては、11 月 1 日にオープンした「学びの杜ののいちカレード」など、市内へ更に賑わいを創出することを想定し、基準値に対して、平日 3,000 人程度、休日 5,000 人程度の増加を見込んだものであります。よりまして、重要業績評価指標 (K P I) を「滞在人口率の全国順位」から「滞在人口」と読み替えるものであります。</p> <p>資料 1 の説明は以上であります。</p>
<p>石川会長</p>	<p>ただ今の、事務局からの説明に、ご意見やご質問などはございませんか。</p>
<p>飯田委員</p>	<p>滞在人口とはどのようなものを言われるのでしょうか。先ほど 54,000 人と説明がありましたのと、大分人数が違うように思うのですが。</p>
<p>事務局 (宮前企画課長補佐)</p>	<p>平成 22 年の国勢調査結果を元に、15 歳から 85 歳までの範囲で、スマートフォンを持って 2 時間以上滞在した人数です。</p>
<p>石川会長</p>	<p>それでは、他に意見がございませんようですので議事 1 番を終了し、次の議事に移ります。</p> <p>議事 2 番の、ののいち創生総合戦略の概要についてと、議事 3 番の、ののいち創生総合戦略の推進状況につきまして、まとめて事務局より説明をお願いしたいと思います。</p> <p>それでは事務局より説明をお願いします。</p>

<p>事務局 (説明)</p>	<p>資料2につきまして、今回から、野々市市創生総合戦略推進会議の委員になられた方もおられますので、「ののいち総合戦略」の概要を説明させていただきます。</p>
<p>資料2 ののいち創生総合戦略の概要について</p>	<p>国は人口減少と地域経済の縮小の克服のため、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成26年12月27日に閣議決定しました。この「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、平成27年10月に創生に向けた中長期的な展望を示した「ののいち創生総合戦略」を策定いたしました。</p> <p>総合戦略の策定に先立ちまして、市の人口と産業構造の現状と将来の姿をできる限り正確に展望し、その方向性を示した「ののいち創生長期ビジョン」を平成27年8月に策定しております。</p> <p>基本方針につきましては、「ののいち創生長期ビジョン」と各種調査分析結果を踏まえ定めたものです。</p> <p>基本目標は、市の将来の姿を展望し、地域経済の拡大と持続可能な人口構造の維持を図るため、「選ばれる“まち”をめざして ～誇りと愛着を持つ、未来の「のゝ市人」のために～」と掲げております。この基本目標は、市民には当市に誇りと愛着を、市外の人からは憧れを感じてもらえるような施策を行うことにより「選ばれる“まち”」であろうとする、当市の強い意志を示すものであります。</p> <p>基本戦略は、基本方針の考え方を受けて、また、基本目標を実現するための手段として、「しごとを創る ～野々市らしい産業の創出～」「ひとの流れを創る ～安心して暮らせる環境づくり～」「“まち”と“ひと”とのつながりを創る ～地域・広域連携によるまちの基盤充実～」の3つを掲げております。</p> <p>次に、各基本戦略の関係ではありますが、「しごとを創る」と「ひとの流れを創る」が連携することで、相乗効果生まれ、「“まち”と“ひと”とのつながりを創る」が「しごと」と「ひと」が相乗効果を生み出すことができる下支えとなります。それぞれの強みを生かした連携を強化することにより、地域の課題の解決をめざすものであります。</p>
<p>資料3 ののいち創生総合戦略の推進状況について</p>	<p>次に資料3について説明させていただきます。</p> <p>ののいち創生総合戦略の推進状況の評価は、行政評価の手法を用いて行っております。初めに、戦略や施策の評価の評価方法について、資料3の1ページの「1 平成28年度の推進状況【基本戦略1 しごとを創る】」により説明させていただきます。</p> <p>まず、一番上の欄には主な事業を記載しておりますが、平成28年度の実施の18件の評価を行いました。次に、これらの平成28年度の実施の総合結果を求めました。その次に、施策1-1の重要業績評価指標（KPI）の評価を行いました。平成28年度の実施の総合結果と施策1-1の重要業績評価指標（KPI）の評価から、施策1-1の総合評価を行っております。同様のことを施策1-2でも行いました。</p>

一番下の基本戦略1の評価も同じ見方をいたしますが、重要業績評価指標（KPI）の評価と「施策1-1の評価」「施策1-2の評価」から、基本戦略1の総合評価を行っております。このように、それぞれの評価を積み上げて評価しております。

それでは、「1 平成28年度の推進状況【基本戦略1 しごとを創る】」の平成28年度の主な取り組みから説明をさせていただきます。

「野々市市創業支援事業計画の策定・認定」であります。平成28年6月に結成した野々市市創業支援ネットワークを活用して、市内で創業をめざす方々を支援するため、野々市市創業支援事業計画を策定し、平成28年8月に国の認定を受けております。創業支援事業計画では、野々市市商工会において、ワンストップ相談窓口の設置や創業塾の開催を行います。「野々市市創業支援ネットワーク」の野々市市商工会以外の機関においても、ワンストップ相談窓口と連携した相談窓口を設置するなど、「野々市市創業支援ネットワーク」の参画機関が連携・協力を図りながら創業支援を行うこととしています。

次に、「創業塾」ですが、平成28年11月から12月にかけて、先ほどの創業支援事業計画に基づき、野々市市商工会様の主催で、創業に係る基礎知識を学ぶ創業塾を全4日間の日程で開催しております。学生9名を含む17名が受講し、地域でのネットワークづくりや学生の起業家マインドの養成につながる創業塾となりました。なお、創業塾を受けた方は、会社設立時の登録免許税の軽減や創業関連保証の特例などといった、国の支援を受けることができます。

次に「企業立地の促進に関する条例の制定」ですが、平成28年12月に、企業立地の促進に関する条例を制定いたしました。平成29年1月1日施行で、人口規模に左右されない強固な産業構造への転換を図るとともに次代を担う産業を創出するものであります。条例では、対象業種に対し、企業立地の促進、雇用の拡大、市内企業の事業機会の拡大を図るため、企業立地促進助成金と雇用促進助成金を交付することとしております。対象の業種につきましては、一般的な製造業などではなく、ソフトウェア業や情報処理・提供サービス業など、野々市市の条件に応じた業種となっております。企業立地促進助成金と雇用促進助成金を交付することによりまして、企業の新たな進出や事業拡大による投資・雇用に支援することで、企業立地の促進、雇用の拡大、市内企業の事業機会の拡大を図り、市内経済の活性化につなげることをめざしています。

「野々市ブランド開発支援・認定制度」であります。野々市ブランドを認定する制度は現時点で整備はされておきませんが、平成28年度におきまして、地域振興アドバイザー派遣事業を実施する体制の整備と事業の周知を行ってまいりました。地域振興アドバイザー派遣事業とは、野々市ブランドになりうる地域資源の発掘に係る検討経費を助成するための事

業であります。また、新たな野々市ブランドとなりうる商品開発といたしまして、石川県立大学様の研究において、市花木の椿の葉からの抽出物が骨粗しょう症に効果があると判明したことから、抽出物を用いたお茶の開発の研究を学官連携により着手しております。平成29年3月に開催した全国椿サミット野々市大会において、お茶の試飲会を行ったところです。

平成28年度の取り組みに伴う施策の評価であります。総合戦略では、基本戦略や施策ごとの進捗状況を検証するために重要業績評価指標（KPI）を設定しております。

「施策1-1 次代を担う産業の創出」の重要業績評価指標（KPI）の評価であります。しかし、いしかわ大学連携インキュベータ（i-BIRD）入居企業のうち当市支援企業数ですが、基準値が10件に対して、目標値を12件としており、平成28年度の実施値が7件であります。平成28年6月に「野々市市、野々市市商工会、日本政策金融公庫金沢支店、地域金融機関として地方銀行3行、信用金庫5庫」からなる「野々市市創業支援ネットワーク」を結成しております。各機関が情報やノウハウを集約しながら野々市市での創業を推進していくことから、評価を「順調」としております。

「産学連携事業支援件数」ですが、基準値が0件に対して、目標値を5件としております。平成28年度の実施値が0件でありますことから、評価を「やや遅れている」としております。市内の大学に対し、支援制度である「野々市市産学連携スタートアップ事業補助金交付制度」について説明を行い、利用促進を図りました。その結果、平成29年5月末現在で1件の申請がありました。今後の申請状況を踏まえて制度の見直しを検討してまいりたいと思っております。また、野々市市創業支援ネットワークが結成されたことで、市だけでなく関係機関での相談支援体制が整ったものと思っております。

「本社機能、研究機関の移転数」ですが、目標値を1件としており、平成28年度の実施値が0件でありますことから、評価を「やや遅れている」としております。平成29年1月に企業立地促進条例を施行し、その内容を、市ホームページへの掲載等を通じて、関係団体に周知を行っております。企業立地のための新たな制度を創設したことで、企業が進出しやすい環境となったのではないかと考えております。また、石川県と連携して企業訪問を行い、成長産業をはじめとする企業の誘致に努めているところであります。

重要業績評価指標（KPI）の評価と平成28年度の取り組みの評価である各事業の評価から、施策1-1の評価を「やや遅れている」と評価しております。

「施策1-2 地域産業の再生と強化」の重要業績評価指標（KPI）の評価であります。しかし、「野々市ブランド品開発支援件数」については、目

標値を1品目としており、平成28年度の実施値が0品目でありますことから、評価を「やや遅れている」としてしております。こちらにつきましては野々市ブランドを認定する制度は整備の検討段階であります。野々市ブランドになりうる商品づくりの支援に努めてまいります。

次に「滞在人口」ですが、議事1において、重要業績評価指標（KPI）を読み替えるとしたものです。基準値が平日36,204人、休日43,319人に対して、目標値を平日39,000人、休日48,000人としており、平成28年度の実施値が平日36,820人、休日45,757人であることから、評価を「おおむね順調」としてしております。先日オープンいたしました「学びの杜のいちカレード」や、平成31年4月開館予定の地域中心交流拠点施設などにより、今後の更なる賑わい創出の期待がされているところであります。

次に「第二創業支援件数」ですが、目標値を5件としており、平成28年度の実施値が0件であります。野々市市創業支援ネットワークの会議の中で第二創業者を含む創業支援策を検討していることから、評価を「おおむね順調」としてしております。

重要業績評価指標（KPI）の評価と平成28年度の取り組みの評価である各事業の評価から、施策1-2の評価を「やや遅れている」と評価しております。

次に「基本戦略1 しごとを創る～野々市らしい産業の創出～」の重要業績評価指標（KPI）の評価であります。企業数」「従業員数」「付加価値額」は、経済センサス活動調査は、5年ごとの調査であり、平成28年度に実施した調査の結果を反映しておりませんので、評価ができていないものであります。

「基本戦略1 しごとを創る～野々市らしい産業の創出～」の評価といたしましては、それぞれの施策の評価から行っており、「やや遅れている」と評価しております。

2ページ目をお開きください。2 平成28年度の推進状況【基本戦略2 ひとの流れを創る】であります。平成28年度の主な取り組みから説明をさせていただきます。

「ワークライフバランスの実現」ですが、ワークライフバランスをテーマとした映画の無料上映会を平成29年2月に開催いたしました。無料上映会は約320人が視聴されております。啓発活動を実施することで、多様な生き方が選択・実現できる社会をめざしてまいりたいと思っております。

「幼児発達相談事業」であります。言葉の遅れなど、発達面において不安のある幼児の保護者や相談希望者などに対しまして、専門家による状況の正確な把握や発達面において不安のある幼児への関わり方などの具

体的方法について適切なアドバイスを行うことにより、疾病等の早期発見や保護者の不安解消を図るものであります。平成 28 年度の専門家による個別相談は、37 回開催し、述べ 130 人が参加されております。

「未満児保育実施事業」ですが、未満児専門の保育園として、休園していた中央保育園を再開しております。これは、共働きの世帯が増え、未満児から子供を預ける家庭が増加していることからの取り組みであります。

「放課後子ども教室推進事業」ですが、放課後の子どもたちの居場所づくりとして、市内の学校や公共施設を活用し、地域ボランティアの方々の協力を得て、子どもたちとともに学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動の取り組みを実施しております。平成 28 年度は、148 人の子どもたちが参加しております。今後とも、地域協力者の募集や工作、体操、クッキング、フラワーアレンジメント、読書など多様な体験プログラムの実施を行ってまいりたいと思っております。

「生活支援サービス基盤整備事業」ですが、地域の課題について、地域の力で解決できるよう、地域支え合いマップ作成により、市民と共に考える取り組みを行っております。地域支え合いマップとは、住民相互の支え合いの関係などを地図におとしこむ「地域診断」のことであります。

次に「施策 2-1 多様な働き方の確立」の重要業績評価指標（K P I）の評価であります。

「ワーク・ライフ・バランス登録企業数」であります。基準値が 8 社に対して、目標値を 10 社としており、平成 28 年度の実施値が 10 社でありますことから、評価を「順調」としております。ワークライフバランスについて、国や県などの各機関が発行及び実施する取り組み内容の事例集やセミナーのリーフレット、育児・介護休業利用者向け融資制度の内容を窓口で配架するなどして、周知を図っているところであります。

次に「女性の就業率」であります。基準値が 53.2%に対して、目標値を 54.0%としており、平成 28 年度の実績値が 54.7%でありますことから、評価を「順調」としてしております。また、「高齢者の就業率」であります。基準値が 19.2%に対して、目標値を 20.0%としており、平成 28 年度の実施値が 24.6%でありますことから、評価を「順調」としてしております。女性の就業に関すること、また高齢者の就業に関することにつきまして、野々市市創業支援ネットワークにより地域一体となった創業支援体制が整備されたことから、継続して制度やセミナーなどの広報活動に取り組んでまいります。

重要業績評価指標（K P I）の評価と平成 28 年度の取り組みの評価である各事業の評価から、施策 2-1 の評価を「おおむね順調」と評価しております。

「施策 2-2 野々市らしい暮らしの実現」の重要業績評価指標（K P

I) の評価であります。

「子育て支援センター年間利用者数」であります。基準値が 37,258 人に対して、目標値を 42,000 人としております。平成 28 年度の実施値は 31,441 人ですが、各種個別施策は順調に進んでおり、放課後児童クラブの整備を計画的に進めていることや、発達相談センターの開設などもあり、子育て環境は向上していることから、評価を「おおむね順調」としてしております。今後も、各種事業を充実することにより、利用者の増加を図ってまいります。

「若年者雇用促進事業新規雇用者数」であります。目標値を 25 人の就業としており、平成 28 年度の実施値が 2 人であることから、評価を「おおむね順調」としてしております。これは、若年者の就業の促進を図るために、国が実施しているトライアル雇用事業を活用して、市内に居住する若年者を引き続き常時雇用した事業主に対し奨励金を交付するものであります。この奨励金を活用する企業は少ないものの、新しい商業施設の進出が進んでいるため、若年者雇用による定住促進に期待ができるものと考えております。

「大学生の県内就職率」であります。目標値が 10% 向上としております。金沢大学を主とする地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）をいしかわ学生定着推進協議会が推進しているものの、平成 28 年度の結果が未公開のため、評価できていないものです。取り組みといたしまして、いしかわ学生定着推進協議会では、平成 28 年度から、起業塾の実施や、県内での就職・生活を PR するポータルサイトの運営を開始しております。

重要業績評価指標（KPI）の評価と平成 28 年度の取り組みの評価である各事業の評価から、施策 2-2 の評価を「おおむね順調」と評価してしております。

次に「基本戦略 2 ひとの流れを創る～安心して暮らせる環境づくり～」の重要業績評価指標（KPI）の評価であります。

「自然増減数」であります。目標値を 800 人増としており、平成 28 年度の実施値が 667 人増でありますことから、評価を「おおむね順調」としてしております。

「社会増減数」であります。目標値を 1,500 人増としており、平成 28 年度の実施値が 211 人減であります。減少の内訳として、平成 27 年度が 166 人減、平成 28 年度が 45 人減でありまして、平成 28 年度の減少の人数が、平成 27 年度と比べますと少なくなっていることや、今後、区画整理事業による良好な住環境が整うことにより、増加傾向になるものと思っております。また、近年でも、800 人、900 人増加という年度もありますので、一時的な減少と捉え、評価を「おおむね順調」としているところであります。野々市市の自然増減、社会増減からなる人口の推移を見ますと、

依然として、増加傾向にあるものです。

次に「合計特殊出生率」であります。基準値が1.69に対して、目標値を1.70としており、平成28年度の実施値が1.69でありますことから、評価を「おおむね順調」としてしております。不妊治療費助成、プレパパママクラス、乳児全戸訪問や産後安心ヘルパー派遣事業等を通して、妊娠から出産・子育てまでの連続的な支援を実施し、子育てしやすい環境づくりの充実に努めているところであります。なお、新たな合計特殊出生率は、人口動態保健所・市町村別統計により平成31年3月に公表の見込みであります。合計特殊出生率の試算をしたところ、1.69よりも良くなるものと見込んでおります。

「基本戦略2 ひとの流れを創る～安心して暮らせる環境づくり～」の評価といたしましては、重要業績評価指標（KPI）の評価とそれぞれの施策の評価から行い、「おおむね順調」と評価してしております。

3 ページ目をお開きください。3 平成28年度の推進状況【基本戦略3 “まち”と”ひと”のつながりを創る】】であります。平成28年度の主な取り組みから説明をさせていただきます。

「ののいち絆プロジェクト」ですが、学生が本市を学びのフィールドとして、町内会活動に参加し、地域課題の解決に地位住民と一緒に取り組んでいくプログラムの構築をめざすものであります。本プロジェクト自体は、まだ、始動しておりませんが、学生が地域住民とともに取り組んでいる活動として、平成28年8月に富奥地区の市民・金沢工業大学生・石川県立大学生・翠星高校・生活学校による野菜や加工品販売、クラフト体験などを行う富奥地区の市場である『TOMISHE(トミシェ)』を開催し、富奥地区の活性化を図りました。また、市民からアイデアを募集し、提案した団体と行政が協働でまちづくりに取り組む仕組みとして提案型協働事業がありますが、その取り組みの一つとして、空き家を利用し、ケアサポートネットワークピーナッツ、本町2丁目町内会、金沢工業大学Toiroプロジェクトの3団体との協働でコミュニティカフェである2丁目カフェの整備を行い、市民の集いと支え合いを深める仕組みづくりが整えております。

「野々市ふるさと交流会の充実」ですが、首都圏や近畿圏在住の野々市市出身者や縁のある方や企業関係者との交流を通じて、「野々市ふるさと交流会」の組織強化に取り組み、市の観光誘致や人材誘致、企業誘致に協力してもらうことをめざすものであります。平成28年11月には、首都圏での交流会「ふるさと交流会 in 東京」を開催し、65名の方に参加いただきました。また、近畿圏での交流会開催に向けて関係機関・団体と協議を行っているところであります。

「地域包括ケアシステムの構築」ですが、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすための仕組みづくりのために、高齢者の抱える課題を6つの

視点に分類し、ワークショップの参加者自身が課題を解決する方法の検討をしていただいています。

「地域福祉推進事業」ですが、市民が悩みを抱え込まずに、地域で安心して住み続けるためには、困ったときに何でも相談できる、気軽に集うことができる場が必要とされています。気軽に集う場として、「農園のあるひろば」を押野丸木と矢作の2箇所で開催し、子どもやお年寄り、地域の方々に栽培及び収穫を行うことで、地域と世代間のつながりを深めていただいています。

「開設公園リニューアル事業」ですが、市民の憩いと安心に満ちた緑の空間づくりのため、野々市中央公園のリニューアルを行っております。園内トイレの改修、駐車場の拡張整備や園路のバリアフリー化、休憩施設の整備、椿の植栽などの整備を行っております。また、園内に市民や来客者が椿に親しみ、憩いの場所となる「ののいち椿館、椿育成棟」を設けており、平成29年3月開催の全国椿サミット野々市大会において一般公開し、活用しております。

「土地区画整理事業」ですが、新しい都市拠点として、西部中央土地区画整理事業は健康防災拠点として、中林土地区画整理事業は学術・新産業創造拠点として事業を行っております。事業の進捗に応じ、社会動態による人口増加を見込んでおります。

「石川中央都市圏連携推進事業」ですが、野々市市は、金沢市・白山市・かほく市・津幡町・内灘町、そして当市の4市2町で形成する、石川中央都市圏の市町と密接なつながりがあり、今後もさらに連携を強化し、石川中央都市圏ビジョンに基づき、圏域の市町と連携事業を実施してまいります。平成28年度は14事業を連携して取り組んでおります。

次に「施策3-1 生活基盤の維持と発展」の重要業績評価指標（KPI）の評価であります。4ページをお開きください。

「コミュニティバス利用者数」であります。基準値が198,934人/年に対して、目標値を200,000人/年としており、平成28年度の実施値が197,457人/年であることから、評価を「おおむね順調」としております。コミュニティバスのニーズに応じたルート改正への取り組みや公共交通利用促進のための総合時刻表の作成を行っております。また、白山市コミュニティバス「めぐーる」と「のっティ」との相互乗り入れや北陸鉄道石川線駅への接続などにより利便度が向上しているものであります。

「新規土地区画整理事業の認可」であります。目標値を平成27年度認可としており、平成27年度に認可済みでありますので、評価を「順調」としております。平成27年度において、新規土地区画整理事業（中林地区、西部中央地区）の認可がなされております。

「公共施設等総合管理計画の策定」であります。目標値を平成28年度策定としており、平成28年度に策定しておりますので、評価を「順調」

としております。公共施設等総合管理計画を策定し、公共施設等の長寿命化、維持管理、民間等の連携等の基本方針を定めております。

重要業績評価指標（K P I）の評価と平成 28 年度の取り組みの評価である各事業の評価から、施策 3 - 1 の評価を「おおむね順調」と評価しております。

次に「施策 3 - 2 安心な暮らしの確保」の重要業績評価指標（K P I）の評価であります。

「地域包括ケアシステムを構築するための拠点数」であります。基準値が 0 箇所に対して、目標値を 4 箇所としており、平成 28 年度の実施値が 4 箇所でありますことから、評価を「順調」としてしております。4 箇所の内訳といたしましては、委託している地域包括支援センター 3 箇所と小規模多機能居宅介護施設 1 箇所でありまして、介護保険等の介護拠点を担っております。

「介護保険新規申請者の平均年齢」であります。基準値が 81.7 歳に対して、目標値を 82.0 歳以上としており、平成 28 年度の実施値が 79.5 歳でありますことから、評価を「やや遅れている」としてしております。年度によって多少の変動はあるものの、おおむね 80 歳前後の状況であることから、今後とも、介護予防事業の充実を図りたいと考えております。

「消防団員定数」であります。基準値が 120 人に対して、目標値を 130 人としており、平成 28 年度の実施値が 120 人です。平成 28 年度の団員数が 109 人であり、定員 120 人に満たない状況であります。このことから、目標値であります 130 人に定数を増加させる段階ではないことから、評価を「やや遅れている」としてしております。消防団員は定数に達してはいないものの、自主防災組織は 54 町内会中 49 町内会で結成されており、共助の考え方が市民に浸透してきていると感じていますことから、消防団協力事業所や企業、大学等と連携を図り、消防団の P R 活動に取り組んでまいりたいと思っております。また、後ほど説明させていただきますが、地方創生の交付金を活用して、消防団員数の増加に努めているところでもあります。

重要業績評価指標（K P I）の評価と平成 28 年度の取り組みの評価である各事業の評価から、施策 3 - 2 の評価を「やや遅れている」と評価しております。

次に「施策 3 - 3 ふるさとづくりの推進」の重要業績評価指標（K P I）の評価であります。

「野々市市に誇りや愛着を持つ市民の割合」であります。基準値が 75.8% に対して、目標値を 80% としておりますが、市民意識調査を実施しておりませんので、評価ができていないものであります。総合戦略の見直しまたは、次期総合戦略策定時に市民意識調査を実施し、数値を把握し

ていきたいと思っております。

「野々市会の会員数」であります。基準値が65人に対して、目標値を90人としており、平成28年度の実施値が76人であることから、評価を「おおむね順調」としてしております。若い世代を中心に未加入者への呼びかけを行い、会員の拡大を図ってまいります。また、毎年開催している「ふるさと交流会 in 東京」への参加者は増えており、新規会員の増加や首都圏でのコミュニティの強化が期待できるところでもあり、近畿圏での交流会開催に向けて関係機関・団体と協議を行っているところでありますので、新規会員数の増加が見込めるものと思っております。

「魅力ある学校づくり懇話会の設立」であります。目標値を5小学校区としており、平成28年度の実施値は0小学校区であります。懇話会の設立に向けた具体的な動きはまだ先になるものと思われませんが、学生ボランティアを活用した学力向上の取組は全小中学校で行われており、地域の大学と連携して子供たちの体力向上を図る取り組みを試みる学校も出てきていますことから、評価を「おおむね順調」としているところであります。

重要業績評価指標（KPI）の評価と平成28年度の取り組みの評価である各事業の評価から、施策3-3の評価を「おおむね順調」と評価しております。

次に「施策3-4 石川中央都市圏の発展」の重要業績評価指標（KPI）の評価であります。

「石川中央都市圏における連携事業数」であります。基準値が22事業に対して、目標値を30事業としており、平成28年度の実施値が14事業であることから、評価を「おおむね順調」としてしております。連携事業の開始年度でありましたことから、平成28年度は各連携事業の連絡会議が中心でありました。平成29年度以降、順次、より具体的な取り組みが促進されると思っております。

重要業績評価指標（KPI）の評価と平成28年度の取り組みの評価である各事業の評価から、施策3-4の評価を「おおむね順調」と評価しております。

次に「基本戦略3 “まち”と”ひと”のつながりを創る～地域・広域連携によるまちの基盤充実～」の重要業績評価指標（KPI）の評価であります。

「地域交流・地域支え合いの拠点の形成数」であります。基準値が25箇所に対して、目標値を45箇所としており、平成28年度の実施値が36箇所であることから、評価を「おおむね順調」としてしております。地域交流のモデルとなるようなカフェやサロンを作ることで、住民主体の活動につながるよう支援してまいります。

	<p>「自主防災組織結成率」であります。基準値が 74%に対して、目標値を 90%としており、平成 28 年度の実施値が 90.7%でありますことから、評価を「順調」としてしております。54 町内会中、49 町内会において、自主防災組織が結成されております。災害時において、市民の皆様の意識として、自分の命は自分で守る「自助」、自分たちの地域は自分たちで守る「共助」との考え方が浸透してきているものと感じているところです。</p> <p>「石川中央都市圏ビジョンの策定」であります。目標値を平成 27 年度策定としており、平成 27 年度に策定してありますので、評価を「順調」としてしております。石川中央都市圏ビジョンに基づき、圏域の市町と連携事業を実施してまいります。</p> <p>「基本戦略 3 “まち”と”ひと”のつながりを創る～地域・広域連携によるまちの基盤充実～」の評価といたしましては、重要業績評価指標（KPI）の評価とそれぞれの施策の評価から行い、「おおむね順調」と評価してしております。</p> <p>基本戦略 1 から基本戦略 3 までの施策及び戦略の評価を説明させていただきましたが、当たり前のことではあります。順調「おおむね順調」のものについては、評価を継続させる取り組みを、「やや遅れている」「遅れている」のものについては、評価を巻き返す取り組みを行ってまいりたいと思っております。</p> <p>「資料 3 ののいち創生総合戦略の推進状況について」の説明は以上であります。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>ののいち創生総合戦略の推進状況につきまして詳細なご説明をいただきました。ただ今の、事務局からの一連のご説明に、ご意見やご質問などはございませんか。</p> <p>ここに記載してあります、ほとんどの事業は総合計画が根幹にありますし、関連する事案も多分にありますので、ほぼ具体的に担当課においてはご指導いただいて進んでいるものと感じております。</p> <p>【基本戦略 2 ひとの流れを創る】</p> <p>放課後こども教室推進事業につきまして、小学校 5 校とこどもセンターとそれぞれ回数が結構多いのですが、それに対して、参加児童数は 148 名というお話でした。</p> <p>小学校の児童数から見ると人数が少ないのですが、少し内容をお聞かせ願えればと思います。</p>
石川会長	
藤田委員	
絹川委員	

<p>大久保教育文化部長</p>	<p>放課後こども教室推進事業は、各小学校区にて、女性センターや公民館などを使用して開催しております。毎週1回程度開催していることや定員制で開催していることから、20人から30人ずつ参加となっております。</p> <p>定員制であることに加え、児童はそれぞれ放課後、スポーツ少年団や色々な習い事など、活動場所が分散している中で、事業に参加していただいております。決して集まりが少ないという印象は持っておりません、児童はそれぞれ勉強にスポーツに習い事に忙しく過ごしていると感じております。</p>
<p>藤田委員</p>	<p>補足しますと、学童保育に参加している児童は、この事業に参加できかねますのでこのような結果になるかと思えます。また地域では色んな見守り隊の方々が活動でサポートしており、また違うコミュニティの中で保護していると感じています。</p>
<p>大久保教育文化部長</p>	<p>もう一点補足しますと、あくまで148人については、個々の参加人員です。平均すると25回各々開催しておりますので、仮に148人が25回参加するということになりますと、148に25をかけたものが概ねの延べ参加人数になるかと思えます。</p>
<p>西村委員</p>	<p>【基本戦略2 ひとの流れを創る】</p> <p>自然増減数が667人、社会増減数がマイナス211人となっており、目標値が1,500人増ということで、こちらの詳細を教えてください。社会増は減ってきているのに対して、自然増の方は増えているということですか。</p>
<p>金場企画振興部長</p>	<p>社会増減数は実績値でマイナスであるにも関わらず、おおむね順調と評価している点で、疑問に感じられているかと思えます。</p> <p>自然増減数につきましては、おおむね順調に推移しておりますが社会増減数は、年度によって変動の幅が激しいものであります。近年は、近隣に大きな工場が建ち、少し人口の流出があったことからマイナスとなっておりますが、現在野々市市においても2つの土地区画整理事業を行っており、今後は良好な居住環境が整備されていく見込みであることから、実績値はマイナスではありますが目標値に向かって施策面からも順調に実施しているということで、おおむね順調とさせていただいております。</p>
<p>事務局 (荒木企画課長)</p>	<p>目標値について補足します。平成31年度の目標値ですが、2つの土地区画整理事業が完了すれば1,500人程度の人口を受け入れることが可能な面整備をしております。土地区画整理事業は平成27年度に始まったばかりでございます。野々市市が非常に狭く土地がなかなか求めにくいとい</p>

<p>西村委員</p>	<p>うこともあり、少し減少傾向にあるのですが、今後も頑張っていきたいと思っていますところでは。</p> <p>社会増減はわかるのですが、終の棲家と言いますか、定住化に関する施策が書かれていないように見受けられます。すべてが定住化につながるとは思いますが、定住化促進のための施策は考えていないのでしょうか。</p>
<p>事務局 (荒木企画課長)</p>	<p>基本戦略2が定住に向けた施策と考えております。子どもたちを育てる世代が、子育てしやすい環境づくりを行うことで、若い世代が集まってきてくださると思っております。例えば発達障害があるお子様に手厚い支援を行う取り組み等、特に子育てに関する施策を進めることで、定住していただくと考えております。直接的に住むところを提供するという支援は、現段階では行っておりません。</p>
<p>西村委員</p>	<p>いずれにしても、終の棲家としていらっしゃる方の住宅を建てる資金については、各市町村どこも行っておいでますが、野々市市だけ行ってないという状況です。その方々にも対応する施策が必要かと思えます。しばらく行っていた経緯もあるのですが、現在は行われていないようです。</p>
<p>山口総務部長</p>	<p>以前は、例えば定住促進奨励金の制度もございました。今も勤労者自己住宅資金利子補給制度という制度がございまして、所得制限はありますが勤労者へ最大年間7万5千円を3年間、利子を補給しております。</p> <p>定住化施策であります。例えば放課後児童クラブにつきまして、待機児童を出さないために、年度途中で補正予算を挙げてまでも対応しております。若い世代や児童が増えることから、学校の増築にもつながっております。土地区画整理事業により良好な住環境の提供、また商業施設の充実、交通政策におきましてもくまなくコミュニティバスを走らせるなど、いわゆる環境整備をすることで定住化を進めたいと考えております。</p> <p>また今申し上げましたように、全く補助金を考えていないということではございません。状況を見ながら施策を進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>澤村委員</p>	<p>【基本戦略2 ひとの流れを創る】</p> <p>今日は女性委員が1人なので、女性の就業率について伺います。目標値に近いので順調との評価となっておりますが、ただ就業率が良ければ良いというものではなくて、内容について、女性が企業の中で、ある程度の地位を求められるということも含めて順調と評価していただきたいと思えます。数字的には順調ということですが、これは今後の課題だと思えます。</p>

<p>東田健康福祉部長</p> <p>事務局 (荒木企画課長)</p>	<p>【基本戦略3 “まち”と“ひと”のつながりを創る】</p> <p>もう一点、介護保険の申請について、介護保険新規申請者の平均年齢は、新規認定か利用申請かどちらですか。</p> <p>介護保険につきましては、新規に認定の申請をされる方です。</p> <p>女性の地位につきましては、いわゆるワークライフバランスについて、行政としてできることは、まず啓発活動だと捉えております。昨年度はワークライフバランスに関します映画会を開かせていただきましたが、映画だけでなく、チラシや広報を通じて、企業の皆様に意識していただくため、行政としては様々な支援を行っていきたいと思っております。</p>
<p>千田委員</p>	<p>【基本戦略1 しごとを創る】</p> <p>地域産業の再生と強化につきまして、しごとづくりがやや遅れているという評価が目立つのですが、第二創業支援件数は0件となっているものの、創業のいわゆる仕組みづくりとして、行政と商工会が連携して事業に取り組まれたかと思えます。実際のところ、野々市市で創業した実績はありますか。また創業にあたっての実績値などを資料として蓄積しておいでますか。</p>
<p>西野産業建設部長</p>	<p>創業の支援件数でございますが、創業支援ネットワーク協力の下、創業塾を開かせていただきました。創業塾においては創業についてだけでなく、第二創業にも取り組んでおります。学生を含め17名の方が受講されましたが、受講をされても、資金計画などもありますので、皆様前向きですが、実績はまだございません。</p>
<p>千田委員</p>	<p>行政と商工会で連携して、データを蓄積して、情報を提供できている状況にあるのでしょうか。</p>
<p>西野産業建設部長</p>	<p>データは今のところ細かいものは蓄積してございませんが、例えばi-BIRDの入居者の方が市内で事業を行いたいという相談がございます。市が直接物件をお貸しするわけではございませんので、賃借物件の紹介をするなどは住宅会社等と連絡をとりながら情報を提供しております。</p>
<p>杖村委員</p>	<p>【基本戦略2 ひとの流れを創る】</p> <p>三点ございまして、 一つ目は、金融機関の立場から定住の施策ということですが、御</p>

存じだと思いますが、今お金を借りますと、2年3年の固定でほしい0.3%から0.4%の金利です。国からの減税分が1%ですから、0.7%から0.6%は税金で元本が返せるという住宅事情でございます。我々としては、これ以上お金を投入してそれが定住化につながるとは限らない。むしろ先ほどおっしゃるように、色々な取り組みを行い、野々市市の魅力を高めることが、より他の地域との差別化につながるのではないかと思います。

【基本戦略1 しごとを創る】

二つ目はKPIにつきまして、今ほどお話がありました、例えば創業支援につきまして我々が把握しているデータだけでも、県内全体で120件から130件の創業のお手伝いをしており、その8割程度が第二創業です。その中で野々市市でという方も多くおられ、実際に新しい支店や拠点を作ったというケースも結構あります。野々市市の取り組みが影響していると思いますので、そのようなKPIの設定をしていった方が実態を表すのではないかと思います。KPIも変えられるものは変えても良いのではないかと思います。

最後に三つ目は、事業の推進をしていただいて、おおむね順調が多いのですが、できれば委員の方から見れば、事前に資料を頂いたときに、やや遅れているところについて、今ほどご説明があったのでわかったのですが、遅れているところの原因が何で、今後その施策をそのまま進めれば大丈夫なのか、追加で施策があるのか、特に問題点があるのかを事前にわかるようにしておいていただくと、説明を聞かなくても参加する際にわかりやすいと思います。できましたら、そのように資料を作っていたらありがたいと思います。

事務局
(荒木企画課長)

KPIの中には数値を達成しているものもございますので、見直し等を含め、検討していきたいと思っております。今回の資料の作り方に関しましては、大変申し訳ございません。確かにこの資料は説明なしで見ますと、正直なかなか読みとりづらいのかと思います。資料につきましても次回に向けて改善していきたいと思っております。貴重なご意見をありがとうございます。

藤田委員

定住促進についてお話がありました、野々市市そのものの定住促進の支援といいますか、支援といっても金銭的なものではなくて、環境が難しく、区画整理がほぼ終わっているなかで提供される土地物件が少なく、難しいかと思っております。御経塚では、60坪以上の地面を所有しなければならないとされていますが、60坪以上の家を建てる必要性がない生活環境をしている方が多いと感じております。そういう特に若い人が住宅求めるのは難しい中では、求められるもの以上、選ばれるもの以上のものを提供しなければならないと町内会では感じております。児童も、スクールバスの運行など、大変サポートされていると感じます。体育教育という観

	<p>点から言いますと、健康づくりのためもっと歩かせたい、走らせたい、マナーを覚えさせたいという考えもあるかもしれませんが、保護者からすると、安全に児童を見守ってもらえる環境、そして安全に勉強できる環境として捉えていらっしゃるようです。</p>
<p>宮崎委員</p>	<p>【基本戦略2 ひとの流れを創る】</p> <p>若年者の雇用の新規雇用者数ですが、実績値が2人、目標値が25人ということで決して高い数字ではないかと思えます。周知不足により伸びていかないのか、あるいは予算の制約があつてということなのか、そのあたりをお聞かせ願いたいです。</p>
<p>山口総務部長</p>	<p>K P I として示している若年者雇用促進事業は、市の事業として行っている事業ですが、県のトライアル事業を引き続き行うもので、トライアル期間終了後のある一定期間、助成金を企業に対してお支払いするものです。少し低くなっておりますのは、あくまで県のトライアル制度を利用された方のみが、対象となっていることからこのような数値となっております。</p>
<p>宮崎委員</p>	<p>企業の方で即採用するのか、あるいはトライアルをして3か月間試し雇用をした上で本人の努力を判断して、正式採用するのか。トライアル制度を使うことで最初のハードルがかなり低くなるという利点もあり、以前と比べ、利用者数も伸びてきていると思っております。数値の底上げは十分可能ではないかと思えますので、見直しなどをお願いできればと思います。</p>
<p>石川会長</p>	<p>大変重要な施策ですので、多くのご意見やご質問をいただきました。それでは、次の議事に移ります。</p> <p>議事4番の地方創生関連交付金（平成28年度）の効果検証について、事務局より説明をお願いします。事務局から説明されます評価の内容をご確認いただいた上で、最後に委員の皆様から、「ののいち創生総合戦略のK P I 達成に有効であったかどうか」の評価を頂きたいと思えます。</p>
<p>事務局 (説明)</p>	<p>資料4の説明をさせていただきます。野々市の創生を実現するために、地方創生関連の交付金を活用して事業を実施しております。効果検証にあたり、実施状況に関する客観的な指標の重要業績評価指標（K P I）を事業毎に設定しております。その達成状況について、外部有識者であります野々市市創生総合戦略推進委員の皆様にご効果の検証をしていただくこととされています。</p>

<p>資料 4 地方創生関連交付金（平成 28 年度）の効果検証について</p>	<p>平成 28 年度に交付金を活用した事業につきましては 2 件ございまして、一つ目は地方創生加速化交付金であります。一億総活躍社会の実現に向けて緊急に実施すべき対策を踏まえ、緊急対応として、「地方版総合戦略」に位置付けられた先駆的な取組の円滑な実施を支援するため措置されたものであります。交付対象事業は、「観光地域づくりに向けた石川版DMO形成推進事業」でありまして、石川県が中心となり申請を行っておりますが、県内全 19 市町が対象の県広域連携の事業であります。</p> <p>二つ目は、地方創生推進交付金であります。「地方版総合戦略」に位置付けられ、地域再生法に基づく地域再生計画に認定される地方公共団体の自主的・自律的な取組で先導的なものを支援するため措置されたものであります。交付対象事業は、「自分のまちは自分で守る」地域の絆を活かした地域の安全向上事業」でありまして、こちらは野々市市単独で申請した事業であります。</p>
<p>資料 4 - 1 地方創生加速化交付金に係る評価（県全体での評価）</p>	<p>それでは、地方創生加速化交付金に係る評価にあたり、資料 4 - 1 の説明をさせていただきます。</p> <p>交付対象事業の名称は「観光地域づくりに向けた石川版DMO形成推進事業」でありまして、先ほど申しましたように、石川県が中心となり申請を行っている、県内全 19 市町が対象の県広域連携の事業であります。野々市市の交付金の受入れは 40 万円であり、事業の概要といたしましては、全体事業は、石川県と県内全 19 市町と民間事業者等が一体となり、「石川県観光連盟」を主体とした日本版DMO候補法人の観光庁への登録のための体制を構築するものであります。野々市市関連の事業概要は、小松空港周辺 7 市町において、旅行商品の造成・販売を支援することで、地域の活性化・地域の魅力に繋げるものであります。あわせて、小松・羽田便の活性化を図るものです。実施内容といたしましては、航空利用観光誘客促進事業として、市から小松空港協議会に負担金を支払い、小松空港協議会が、小松・羽田便を利用し、宿泊を伴った体験等の旅行商品を造成するものです。旅行パッケージを記載しておりますが、「越中八尾おわら風の盆と世界遺産五箇山集落 寛ぎ（くつろぎ）の金沢 2 連泊」につきましましては、喜多家住宅の見学が旅行パッケージに含まれておりまして、23 名の方が参加されております。その他 2 件の旅行パッケージがありますが、この 2 件については、フリープランで喜多家住宅、旧魚住家住宅の見学が選択できる旅行パッケージであります。なお、フリープランのため、実際にその旅行パッケージにて喜多家住宅、旧魚住家住宅を選択して、来ていただいた方の人数までは把握ができないものとなっております。</p> <p>交付対象事業の重要業績評価指標（KPI）と実績値であります。こちらも県が設定し、県より実績値を報告いただいておりますが、KPI ①の「金沢地区への入込客数」の平成 28 年度の達成率は 103.7%、KPI ②の「小松空港の国内線利用者数」の平成 28 年度の達成率は 118.2%で</p>

<p>資料 4 - 2 地方創生推進交付金に係る評価 (野々市市単独での評価)</p>	<p>ありますことから、事業の効果といたしまして、「地方創生に非常に効果的であった」としているところであります。</p> <p>実績値を踏まえた今後の方針といたしまして、更なる地域活性化・地域の魅力向上に繋げることと合わせて、小松空港の利便性を維持するため新たな利用者の確保と現在の利用者の継続した利用を他の市町と連携して図っていく必要があるため、今後も事業を継続すべきであるとしているところであります。</p> <p>「ののいち創生総合戦略の位置付け」であります。先ほどご説明した「基本戦略 1 しごとを創る」の「施策 1 - 2 地域産業の再生と強化」の「2 観光の活性化等を通じた交流人口の増加」にあたる重要業績評価指標 (K P I) に「滞在人口」があります。滞在人口が伸びてきていることから評価を「おおむね順調」としているところであります。こうしたことから、事務局では、「ののいち創生総合戦略の K P I 達成に有効であった」と判断しているところであります。</p> <p>次に地方創生推進交付金に係る評価にあたり、資料 4 - 2 の説明をさせていただきます。</p> <p>交付対象事業の名称は「自分のまちは自分で守る」地域の絆を活かした地域の安全向上事業」でありまして、こちらは、野々市市単独で交付金の申請を行ったものであります。地方創生の深化のすそ野を広げる取組である横展開タイプの事業を、平成 28 年 8 月の地域再生計画の認定から平成 31 年 3 月までの 3 ヶ年度で実施してまいります。地域再生計画上の事業総額は 67,000 千円でありまして、平成 28 年度の事業費の 12,089 千円のうち、対象事業額の 1/2 にあたる 5,074 千円の交付金を受け入れております。</p> <p>事業の概要といたしましては、地域の安全向上の核となる新たな組織の設立に向け、拠点避難所の環境整備をはじめ P R 活動など、防災情報の啓発や防災力向上に関する事業を実施してまいります。また、高齢者の日常の助け合いを充実するとともに、地域の課題を自分たちで解決していく仕組みづくりに取り組むことで、新たな地域コミュニティの構築や地域の活性化が図るものであります。</p> <p>実施内容といたしまして、拠点避難所防災力向上事業ですが、総合防災訓練において、市民と関係機関が意見交換することで、各避難所に設置する防災用資器材を取り決めるなど、市民への防災意識を高めるものであります。平成 28 年度につきましては、非常参集訓練を 8 月に実施し、一時避難所に参集した市民の方は 4,776 人、職員は 255 人が参加しております。訓練においては、マンホールトイレの設置訓練などを実施しております。</p> <p>また、防災用資器材として、マンホールトイレ、組立トイレ、段ボールベットなどを購入しております。</p> <p>地域包括ケアシステム基盤整備事業ですが、高齢者になっても住み慣れ</p>
---	--

た地域で安心して暮らすことができるように、高齢者の日常生活課題を把握し、市民が主体となって解決するという意識を醸成ための事業であります。平成 28 年度につきましては、高齢者の取り巻く生活課題を把握し、「運動」「食」「仕事」「住まい」「医療」「介護」の 6 つの課題の解決策を検討いたしました。

ここでは、「仕事」と「運動」と「住まい」の説明をいたします。「仕事」では、テーマを高齢者が活躍できる有償サービスの構築といたしまして、高齢者の困り事を解決していくサービスの構築をめざすものです。「運動」は、テーマを STAND UP 301 宣言といたしまして、1 日に座る時間が長くなると、狭心症や脳梗塞などのリスクも高くなるという研究結果があることから、30 分に 1 度立つという日常動作に着目し、「STAND UP 301 宣言」を実施するものです。次に「住まい」は、テーマを不動産、町内会、高齢者の連携サイクルといたしまして、地域や地元の不動産管理会社と連携し、アパートを中心とした入居高齢者の「暮らしの困りごと」を解決する仕組みづくりをめざすものであります。

交付対象事業の重要業績評価指標（K P I）と実績値であります。K P I ①の「自主防災組織が行う防災訓練の開催割合」の平成 28 年度の達成率は 113.2%、K P I ②の「消防団員数」の平成 28 年度の達成率は 95.6%、K P I ③の「地域包括ケアシステム構築に携わる活動団体数」の平成 28 年度の達成率は 166.7%でありますことから、事業の効果といたしまして、「地方創生に相当程度効果的であった」としているところであります。実績値を踏まえた今後の方針といたしまして、万が一の発災時において、地域防災力を発揮できない状況にあることから、今後も事業を継続すべきであるとしているところであります。

「ののいち創生総合戦略の位置付け」であります。「基本戦略 3 “まち“と”ひと”のつながりを創る」の「施策 3-2 安心な暮らしの確保」の「1 高齢者が安心して暮らせる地域の構築」と「2 人口減少に対応した地域組織の充実強化」にあたる重要業績評価指標（K P I）として、「地域包括ケアシステムを構築するための拠点数」と「消防団員定数」があります。

「消防団員定数」は「やや遅れている」との評価ですが、この交付金事業により、団員数を増加させ、平成 31 年度に定数を増加させることをめざしていること、また、「地域包括ケアシステムを構築するための拠点数」は「順調」との評価であることを総合的に判断し、事務局では、「ののいち創生総合戦略の K P I 達成に有効であった」と判断しているところであります。

「資料 4 平成 27 年度地方創生関係交付金を活用した事業の評価について」の説明は以上であります。

石川会長	<p>ただ今の交付金を活用した事業の評価につきまして、ご意見やご質問などはございませんか。</p>
藤田委員	<p>当事者の立場から意見を言いますと、両方ともそれぞれおおむね順調と評価されるものと思います。</p> <p>4-1は広域事業の中の位置付けですが、観光事業に参画される方が安心して働きにいける場づくりを、市は提供しているのではないかと思います。</p> <p>4-2については、野々市市は若いまちと言われますが、高齢者の方もいらっしゃいます。その中で皆さんのお手元にございますポスターは、補助金から実施したのですが、野々市の老人会で作成したものです。30分間じっとしていたら、一度立ち上がろうという運動を一生懸命行っています。</p> <p>一番困るのは高齢者の方の孤独死です。地域支え合いマップを作成するというのは、地域でサポートしながら地域のチェックをするもので、地域の防犯能力を高めております。この活動のサポートをしていただけることは、非常にありがたいと思っております。</p>
飯田委員	<p>4-1は観光地域づくりに向けた取り組みということで、野々市は観光施設が少なく、このような取り組みは難しいと思うのですが、石川県の全体として一体に取り組む中で、喜多家住宅、旧魚住家へ見学に来た人数を把握できない、していないというのは少し残念に思いました。</p>
事務局 (荒木企画課長)	<p>数値の説明が足りなかったのかもしれませんが、喜多家住宅の見学者は前年度から20人から30人程度増加していると伺っております。その中には台湾の方もいらっしゃったと聞きました。それほど人数としては多くないのかもしれませんが、少しずつ興味を持っておいでる方もおいでます。野々市市は今まで素通りだったかもしれませんが、少し経由して立ち寄っていただけるように、これからも期待していきたいと思います。</p>
絹川委員	<p>関連しまして、4-1につきまして、滞在人口ではなく野々市市に来ていただいた人数であればわかるのですが、滞在人口による評価となると、2時間も野々市市においでるのでしょうか。喜多家住宅、旧魚住家へおいでた方に対して、ついでに見学してもらうことや、丁寧に見てもらうことなど、何か対策を考えておいでますか。</p>
事務局 (荒木企画課長)	<p>詳細な分析までは追いついていないのですが、滞在人口については、観光施設というよりも大型商業施設に滞在されている人数が非常に多いとみております。観光資源を活用して、野々市に足を運んでいただけるよう頑張っていきたいと思っております。</p>

石川会長	<p>他に何かございますでしょうか。</p> <p>それでは、これらの事業の評価につきまして、特にご意見がございませんようでしたら、「これらの交付金がののいち創生総合戦略のK P I達成に有効であった」と評価したいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
石川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>これで全ての報告および議事が終了しました。既に2時間弱となっておりますが、最後に、各界からお集まりいただいております委員の皆様方から、それぞれのお立場で地方創生に係る取り組みやお考えなどがございましたら、ご発言いただきたいと思っております。</p>
藤田委員	<p>今お手元の方にもう一つパンフレットが行っているかと思っております。</p> <p>「結ネット」という町内会等の情報を共有できるアプリを、野々市版として試験的に運用しており、他の地域の方々にもご興味を持っていただいております。</p> <p>野々市市において「結ネット」は、あくまでも地域住民、町内会ベースでそれぞれの人たちが集まって運用しようというものです。市主体で推進するのではなく、皆でお互いに助け合うというスタイルです。他のところは、公共で推進されているところもございますし、それぞれです。様々なノウハウを、工大生を含めて皆様持っているはずなので、それらを推進していこうというのが地域の皆様の考えです。</p>
杖村委員	<p>資料を拝見したのですが、この中で事業者との連携とあります。この取組は非常に未来もあってポテンシャルもあると思うのですが、具体的にはどなたとお話をすれば良いのでしょうか。</p> <p>我々のスタッフとアプリの連携をさせていただくことで、地域の皆様に情報発信もできますし、もちろん情報だけでなく、我々も少し運営のお手伝いもできると思っております。具体的には後程お伺いします。</p>
事務局 (荒木企画課長)	<p>ありがとうございます。企画課が窓口となっておりますので、御連絡いただきたいと思っております。</p>
石川会長	<p>その他、何かありますでしょうか。これにて会議のほうを終了いたします。それでは、その後の進行につきましては、事務局にお返しします</p>
事務局 (荒木企画課長)	<p>長時間にわたりまして皆様から貴重なご意見ご提言をいただき、誠にありがとうございました。</p> <p>皆様から頂戴したご意見ご提言を参考にしまして、ののいち創生総合</p>

	<p>戦略をもとに、今後も「ののいち創生」を進めてまいりますので、今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>以上をもちまして、平成 29 年度野々市市創生総合戦略推進会議を終わらせていただきます。</p> <p>委員の皆様、本日は長時間にわたり、ありがとうございました。</p>
--	--